

ねらい 「災害時に備え考えて行動できる児童の育成の場」
「災害時の課題を理解し、児童支援に向けた教職員の学習の場」
流れ ①映像から学ぼう ②災害食を知ろう ③問題提起

水害の仕組みや避難場所、避難の仕方について3択クイズを出題し、映像で説明。避難の仕方については、東日本大震災での大川小の避難を例に出し、日頃の意識や訓練の大切さを学習しました。

①映像から学ぼう

②発表の様子

「人間が歩ける水の深さはどれくらいか」の質問に6年生が考えを発表しています。大人も子どもも歩ける深さは約40cmです。

味はポテトサラダ。

マヨネーズを混ぜたり、キュウリ等を入れるとさらに栄養的にもよいです。

「消火器の粉の出る時間はどれくらい？」
写真の消火器は約14秒。
噴射時間は思っていたより短く、教職員からも驚きの様子が見られました。
噴射時間は消火器の側面に書いています。

③初期消火の説明

1分

30秒

2分

「じゃがいものスナック菓子」を活用した災害食。お湯を注ぎ、ほぐして混ぜると出来上がりです。

④災害食を知ろう

【児童に向けて】

- ・災害（被害や避難の仕方、避難所）について知る
- ・どこに避難するかを家族で決めておく
- ・避難の際「こうだ」と決めつけてはいけない
- ・ハザードマップの利用や作成を
- ・見通す力をつけてほしい（大野校長先生より）

【教職員に向けて】

- ・何のための訓練か、どんな力をつけたいか明確に
- ・避難のはやさも重要だが避難後の行動が実は大事
- ・管理職不在時の判断もできるように
- ・個々が考えて行動できる力の育成を